

第2章 討議の結果とまとめ

「たかさき市民討議会VOICE2013」では、A～Fグループ（6グループ）に分かれ、各テーマに関して計6回の討議を行いました。討議1では各個人が持つつながりの現状を抽出し全体で共有をおこないました。討議2では、地域のつながりを生む場について広く討議しました。そして討議3～5ではつながりによるまちづくりについて具体的場面を設定し掘り下げて討議しました。討議6では、討議の全体のまとめとして暮らし続けたい街であるために一番重要なつながりについて討議を行いました。

<討議スケジュール>

9月7日(土)		9月8日(日)	
考えよう！暮らし続けたい街 ～つながりから始まるまちづくり～		8時30分開場、9時開始	
		9:00 9:10	本日の予定
		9:10 10:40	討議3<90分> 『地域において世代間のつながりを生むのはこれだ！』
		10:40 10:45	投票
		10:45 10:55	休憩
		10:55 12:25	討議4<90分> 『地域内のつながりを強くする便利なコミュニティバスはこれだ！』
		12:25 12:30	投票
12時30分開場、13時開始		12:30 13:30	休憩(昼食)
13:00 13:30	オリエンテーション	13:30 15:00	討議5<90分> 『つながりから生まれる中心市街地の活性化はこれだ！』
13:30 15:00	討議1<90分> 『私たちのつながりの現状について』 ～今の私のつながり～	15:00 15:05	投票
15:00 15:15	休憩	15:05 15:15	休憩
15:15 16:45	討議2<90分> 『地域のつながりを生む場はこれだ！』	15:15 16:45	討議6<90分> 『「暮らし続けたい街たかさき」一番重要なつながりはこれだ！』
16:45 16:50	投票	16:45 16:50	投票
16:50 17:00	明日に向けて	16:50 17:00	まとめ・総括
終了、解散		終了、解散	

【討議１】『私たちのつながりの現状について』～今の私のつながり～

＜討議の目的＞

討議参加者各個人が持つ、つながりの現状について発表し合い、どのような傾向があるのかを分析することで、つながりの現状を把握し、討議２以降で具体的な施策を討議する際の参考としていただくこと。

＜情報提供の内容＞

平成１９年度国民生活白書「つながりが築く豊かな国民生活」を参考に、つながりを「家族」「地域」「職場」の観点から整理し、つながりがもたらす価値について説明し、暮らし続けたい街であるためには、つながりが必要であることを確認しました。

＜討議結果の考察＞

討議１は、現状を把握いただく目的でしたので、各グループの発表のみを行い、投票を行いませんでした。

全体として地域のつながりが少ないという意見が目立ちましたが、町内会や隣保班などにより一定の活動がある指摘もあり、地域のつながりは少ないながらもあるといえます。

また、ボランティア活動や趣味・サークル活動を通したつながりがあるという意見が多くでした。

<討議結果のまとめ>

討議1 『私たちのつながりの現状について』 ～今の私のつながり～

班	今の私のつながり
A	サークルへの参加、イベントの参加、高崎まつり、地域の祭り
A	若い人との交流、ボランティアへの参加
A	近所、地域の人達との交流
B	子供・学校を通じて
B	地域とのつながりは隣保班が主
B	アパート・マンション・新興住宅街では情報不足
C	家族(家庭内)とのつながりが希薄になっている
C	地域とのつながりは崩壊へ！
D	社会(職場・地域)、家庭を基盤にしつつ…
D	趣味を通じてのつながり、仕事をもつ(自分を活かせる)
D	会話(家族・世代間とのコミュニケーション)、ジェネレーションギャップをなくす
E	町内会
E	育成会
E	ボランティア
F	家族
F	地域・ボランティア
F	職場

討議1 『私たちのつながりの現状について』 ～今の私のつながり～

グループ

A

メンバー

大植・上杉・岡田・五十嵐・高山・南部

作業スペース

サークル・イベント(趣味)

- ・文化サークルに参加
- ・フルート・アンサンブル参加
- ・おはなしの会参加
- ・市のサークルイベント参加
- ・グランドゴルフ週三回
- ・高崎まつり、フェスティバル参加
- ・地域の芸能しゃぎり保存会
- ・小売店等イベント、企業のイベント
- ・他県、職場の勉強会

地域の交流(社会性)

- ・役員をすることで知り合いになれる
- ・PTA活動
- ・地域の情報がもう少し欲しい
- ・親しく話したい
- ・近所の商店への買い物
- ・近所の子供への声掛け

心のやすらぎ

- ・ボランティア(外国の方、子供たち)人のためになることができる
- ・つながり 現在託児ボランティアをしている
- ・若い人と関わるができる機会が欲しい
- ・子供の友人の親と交流する

意見のまとめ

- ◇サークルへの参加、イベントの参加(高崎まつり、地域の祭り)
- ◇若い人との交流、ボランティアへの参加
- ◇近所、地域の人達との交流

討議1 『私たちのつながりの現状について』 ～今の私のつながり～

グループ

B

メンバー

山田、藤田、大胡、反町、戸塚

作業スペース

職場

・職場内

子供・学校

・PTA
・子供会や育成会に非協力的な方がいて難しい
・学校関連の緊急連絡はメールがメイン
・子供の習い事を通じて父兄同士

地域

・班長 ・消防団 ・班内の回覧板
・組合同士のつながり ・町内対抗運動会
・地域の道路掃除(町内清掃)。今は少ないが・・・
・地域のルールが簡略化している(若い世代に合わせる)
・地元の祭りに参加した
・ボランティア、地域の子供達をみんなで守ろうという雰囲気

つながりたいけど・・・

・家庭内のつながりのみで地域とのつながりがない
・家族間とのつながりのみ
・広報などで情報があれば地域の事業に参加出来るのに
・高齢者、マンション住まい、マンション内に誰が住んでいるのかわからない
・仕事が忙しいと地域とつながれない

意見のまとめ

◇子供・学校を通じて

◇地域とのつながりは隣保班が主

◇アパート・マンション・新興住宅地では情報不足

討議1 『私たちのつながりの現状について』 ～今の私のつながり～

グループ

C

メンバー

角田・星野・三木・村本・中島・松井

作業スペース

- ・家族(家庭内)の見直し
- ・在り方について(心の精神的)
- ・地域活動
- ・町内会のつながり
- ・家族構成について
- ・日常の具体例(年代により現)
- ・家、二世住宅、家族のかかわり
- ・社会(地域での役職)
- ・新しい事へのつながり
- ・家族、子育てして初めて世の中、親の在り方
(支援→親・・・ボランティア(子育てへのアドバイス))

意見のまとめ

- ◇家族(家庭内)とのつながりが希薄になっている
- ◇地域とのつながりは、崩壊へ！！

討議1 『私たちのつながりの現状について』 ～今の私のつながり～

グループ

D

メンバー

金井・岩丸・中村・村上・成瀬・飯塚

作業スペース

地域

- ・家族(仕事)以外のつながり
- ・職場でのつながり(世代間のギャップ、時代についていけない)
- ・教わることも大切
- ・つながりを作る為の努力も必要
- ・自分での情報発信。受信も大事

趣味・実益

- ・ヨガ等始める
- ・手作りを通じて友達を作る
- ・旅をしたり、食事したり
- ・女性が元気になる居場所づくり
- ・居場所、自分探し、ボランティアのとっかかり

コミュニケーション

- ・人の言葉をよく聞く(老いた人、若い人)
- ・話をするということ言葉のキャッチボール
- ・家族との会話、特に子供(スマホ世代)

意見のまとめ

- ◇社会(職場・地域)、家庭を基盤にしつつ・・・
- ◇趣味を通じてのつながり、仕事をもつ(自分を活かせる)
- ◇会話(家族、世代間とのコミュニケーション)、ジェネレーションギャップをなくす

討議1 『私たちのつながりの現状について』 ～今の私のつながり～

グループ

E

メンバー

高井・塚越・春山・今井・村田・後閑

作業スペース

育成会・町内会

- ・運動会
- ・ラジオ体操
- ・防犯パトロール
- ・自治会
- ・地域の組織や行事が減ってきており、つながりが薄くなっている

ボランティア

- ・子供たちの農園を作っている
- ・ブックスタートボランティアで赤ちゃん
- ・そば打ち体験
- ・竹林の会
- ・近所の人

意見のまとめ

- ◇町内会
- ◇育成会
- ◇ボランティア

討議1 『私たちのつながりの現状について』 ～今の私のつながり～

グループ

F

メンバー

黒澤・小松・米山・小林・安田

作業スペース

家族

- ・夫と二人家族
- ・夫、子供(小1) 核家族
- ・女房と二人
- ・一人暮らし
- ・父と二人

地域

- ・市主催のイベントに参加
- ・毎月第二日曜日に掃除
- ・近所の子供関係の家族
- ・よく行くお店

ボランティア

- ・公民館 図書ボランティア
子供に読み聞かせ
- ・日本語支援 小学生に学習支援
- ・音楽のボランティア 高齢者施設
- ・消防団員が増えるとよい
- ・弓道をしていると仲間が増える

職場

- ・営業(仕事でつながる)
- ・市の教育機関
- ・市外で収入、
お金を住んでる地域に落とす

意見のまとめ

◇家族

◇地域・ボランティア

◇職場

【討議２】『地域のつながりを生む場はこれだ！』

＜討議の目的＞

地域のつながりを生む場としてはどのようなものが考えられるか。市民自らまたは市民と市が協働して場を作るにはどうしたらよいかを考える。

＜情報提供の内容＞

認定ＮＰＯ法人じゃんけんぽん理事長 井上謙一氏から、地域のつながりを生む場を作る取り組みをご説明いただきました。

＜討議結果の考察＞

全体投票の結果、第１位は「街中の安らぎの場を設ける（樹木を多く、ベンチ、遊歩道を多く）」という意見であり、人々が街中でくつろぐ場を増やし、交流の機会を増やすことを意図した考えでした。

第２位は、「公共施設の利用に対するＰＲ強化」という意見であり、つながりを生む場がどこにあるかを市民が知る機会を増やすことを意図した考えでした。

第３位は、「自然とのつきあい」という意見であり、これも第１位の意見と同様の意図に基づく考えでした。

その他、公民館、集会所、小学校空き教室といった既存施設を活用する意見が多くのグループから出されましたが、票がまとまらなかったため上位にはなりませんでした。

＜討議結果のまとめ＞

討議2 『地域のつながりを生む場はこれだ！』

＜投票の結果＞

第一位	17票	街中の安らぎの場(樹木を多く、ベンチ等(トイレ含む)、遊歩道を多く
第二位	13票	公共施設の利用に対するPR強化
第三位	12票	自然とのつきあい

票数	地域のつながりを生む場はこれだ！	班
9	基本は自らのあいさつから！	A
5	イベントに参加する	A
2	公民館の活用方法	B
0	地域の親睦を充実(花見・盆踊り・ラジオ体操)	B
17	街中の安らぎの場(樹木を多く、ベンチ等(トイレ含む)、遊歩道を多く	B
9	世代間交流	C
1	行政サービス	C
3	地域ボランティア	C
11	既存施設の活用(公民館・集会所・小学校空き教室)	D
0	イベントを通じて	D
6	年代を超えた人々が集まれる施設	D
12	自然とのつきあい	E
5	地域の施設の利用	E
7	近所つきあい	E
1	公民館の効率的運用(使用者管理)	F
1	小学校の空き教室の利用	F
13	公共施設の利用に対するPR強化	F

討議2 『地域のつながりを生む場はこれだ！』

グループ	メンバー
A	小松・飯塚・三木・村本・村田・松井

作業スペース

<健康っていうことの大切さ> ・心も(若々しく)身体もその情報提供することで仕事(女性の自立)(経済の自立)をサポートし携わる人たちと密なるつながりをもっています ・母として嫁としても大事ですが一人の女性としての存在価値提供できる<価値ある可能性>を求めている仲間とのつながりは楽しく心豊かになっています
あいさつ ・朝おはよう 昼こんにちは 夜こんばんは あいさつをしよう ・朝ウォーキングなど運動が出来、コミュニケーションができる場所 ラジオ体操(合同で) ・地域のつながりはどうすればよいか？ まずは集まれる所に誰かと一緒に集まる事からはじめたい
イベント・コミュニケーション ・職場での地域への活動 ・地域柄地元の人達が多く、なかなか他地域から嫁いできたので入りづらい ・公共施設の利用等 交流 ・スーパーや店舗に於ける人との交流 ・自ら地域の行事に参加する。また近所の人達を誘う(隣保班は協力的です。) いろんなグループは活動しています。 ・地域とのつながり、子供会のバザーに参加、パトロール(犬の散歩の為) ・バーベキュー施設と公園など子供、家族が集まれる場所 (納涼祭、どんど焼などのイベントをする場所)

意見のまとめ

- ◇ 基本は自らのあいさつから！
- ◇ イベントに参加する。

討議2 『地域のつながりを生む場はこれだ！』

グループ	メンバー
B	村上・反町・五十嵐・岡田・塚越

作業スペース

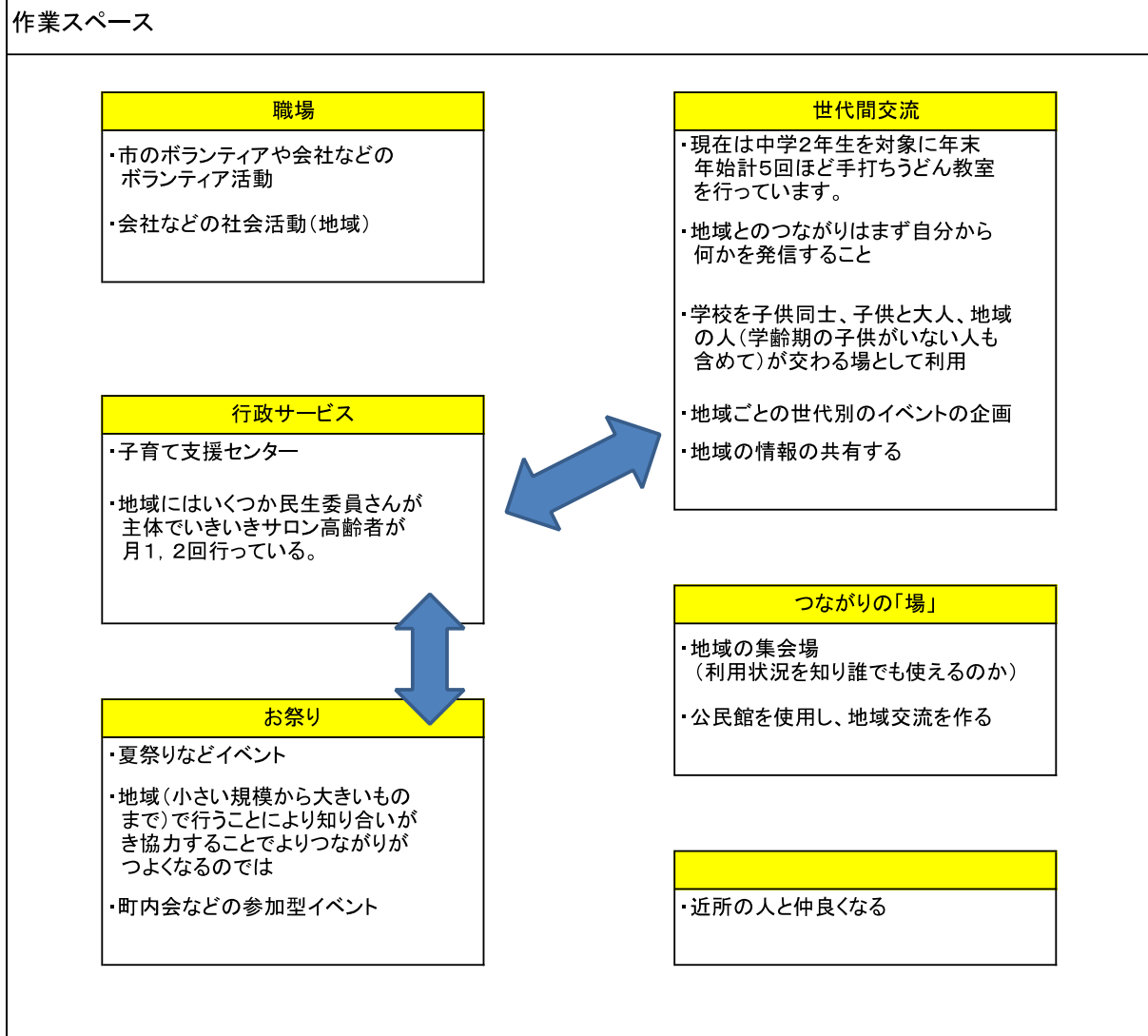
公民館 ・公民館をどう使うか ・公民館の利用方法	地域の親睦の充実 ・町内でイベント、家族で参加、スポーツ、花見、旅行 ・地域親睦、スポーツレクリエーション（綱引き 玉入れ） ・ラジオ体操（子供～大人～老人） ・地蔵盆、盆踊り、銭湯、昔ながらのイベントが少なくなった ・隣保班の簡単な親睦会（老人、子ども家の中で必ず出席）、玉入れとか綱引き
・祭りなどのイベント ・趣味でつながるのは小さくて自然 ・限られた人たちが仕切ってしまうのは良くない ・目的がはっきりしない ・広報等によるイベントやカルチャー教室のインフォメーション強化	町中の安らぎの場所 ・町中に休憩所、日影になる場所、トイレ（自由に使える場所） ・集客アップ、街中公園（緑の樹木、花、歩道、自転車道） 行きたくなる町

意見のまとめ

- ◇ 公民館の活用方法
- ◇ 地域の親睦を充実（花見・盆踊り・ラジオ体操）
- ◇ 街中の安らぎの場（樹木を多く、ベンチ等（トイレ含む）、遊歩道を多く）

討議2 『地域のつながりを生む場はこれだ！』

グループ	メンバー
C	大胡・春山・黒澤・南部・岩丸・安田

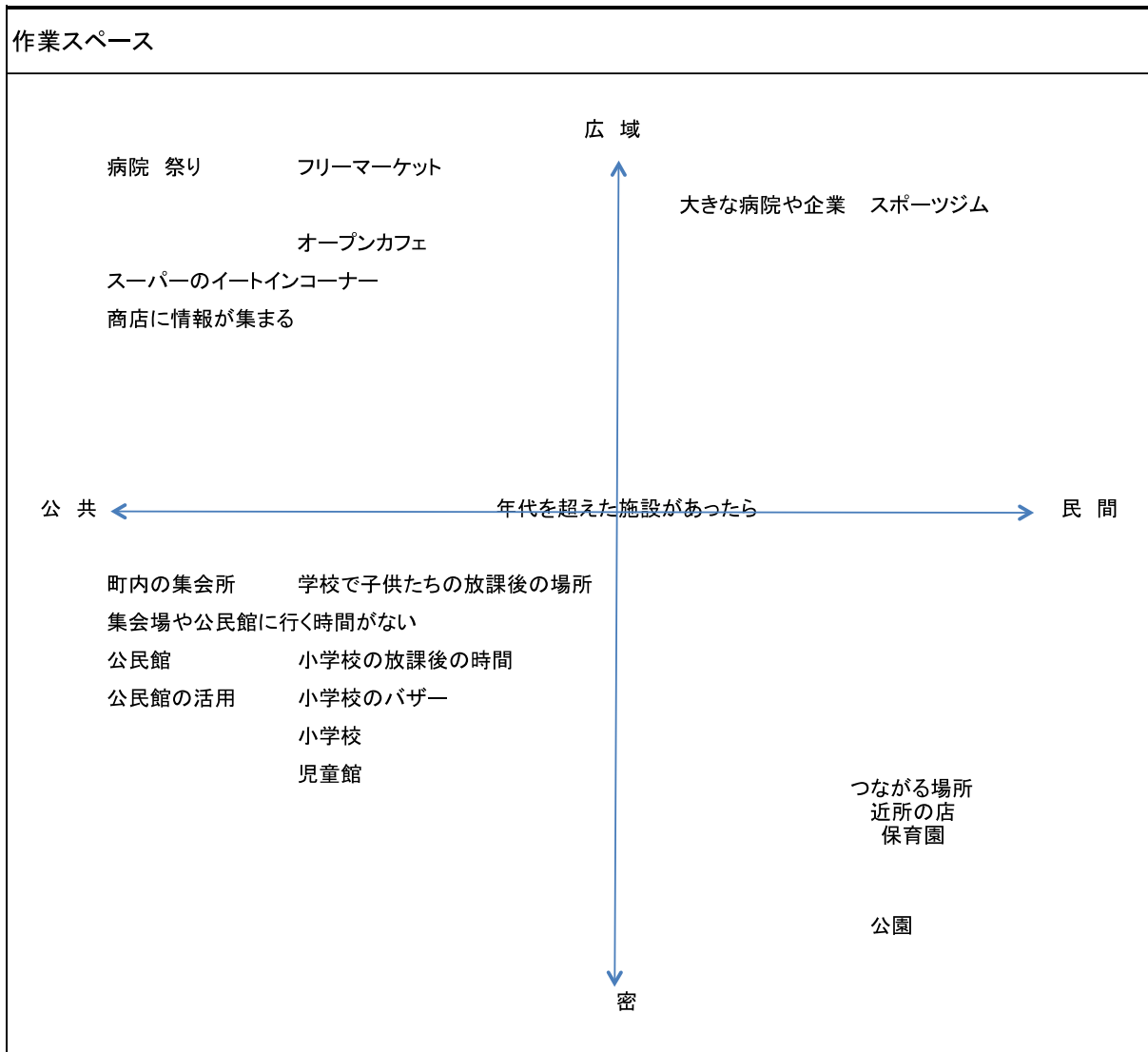


意見のまとめ

- ◇ 世代間交流
- ◇ 行政サービス
- ◇ 地域ボランティア

討議2 『地域のつながりを生む場はこれだ！』

グループ	メンバー
D	大植・今井・角田・中村・高山



意見のまとめ

- ◇ 既存施設の活用(公民館・集会所・小学校空き教室)
- ◇ イベントを通じて
- ◇ 年代を超えた人々が集まれる施設

討議2 『地域のつながりを生む場はこれだ！』

グループ

E

メンバー

中島・藤田・小林・金井・戸塚・上杉

作業スペース

社 会

- ・自然、管理された自然風の公園
(蛍の飛ぶ場所)
- ・ビオトープ
- ・民間が運営するミニ公園
- ・公園
高齢者が鍛えられる、遊べる器具
- ・公民館 オープン日 少し 年齢なし
- ・ラジオ体操
スタンプ集めて町内会で買い物
安くなるポイントが貯まる

個人

- ・自宅でのミニ花壇
- ・声がけあいさつ
- ・花壇を見ながら会話できるような
きっかけをつくる
(むしろ小さいものの方がいいのでは?)
- ・家の隅でもいいのでベンチ縁側で
ご近所さんとの会話のきっかけに

- ・80代の母があまり外に出たがらない。
外へ出かける魅力を見つける。

意見のまとめ

- ◇ 自然とのつきあい
- ◇ 地域の施設の利用
- ◇ 近所つきあい

討議2 『地域のつながりを生む場はこれだ！』

グループ

F

メンバー

米山・高井・星野・後閑・成瀬

作業スペース

趣味 サークル活動

- ・ピンピンころり
趣味カラオケなど
「介護」について良くわからない
居場所には分かり易い表示を
- ・地域
ヨガ教室などに参加
またスポーツ教室に参加
つながりをもって孤立しないように
している

公共施設の有効利用

- ・祭りなどがその所だけでもっと回りに
発展させる
- ・体育館で行うことを
PR不足 広報力不足
- ・イベントごとの情報が少ない
- ・公共施設の情報発信が少ない
- ・内々だけでなく広く情報を発信して
声を出し行事を手伝ってもらう

公民館の効率的運用

- ・公民館の活用
- ・小学校の空き教室の利用
- ・閉鎖的で情報発信が不足
人の集まりに近所の公的機関を使う
- ・会場を有効利用していない
今ある所に人を集める工夫をする

意見のまとめ

- ◇ 公民館の効率的運用(使用者管理)
- ◇ 小学校の空き教室の利用
- ◇ 公共施設の利用に対するPR強化

【討議３】『地域において世代間のつながりを生むのはこれだ！』

＜討議の目的＞

地域のつながりのうち、世代間のつながりに焦点をあて、世代間のつながりを生む方法を考える。

＜情報提供の内容＞

高崎市十文字町区長 飯野良二氏から、十文字町における世代間のつながりを生む活動の実践についてご説明いただきました。

＜討議結果の考察＞

全体投票の結果、第１位となったのは「リーダーの育成（地域・行政）」という意見であり、２位以下を大きく引き離し多くの支持を受けました。

第２位は、「つながりの基本は家庭（あいさつ，食事，季節の行事）」という意見であり、家庭においてあいさつ習慣，郷土料理，郷土の行事を大切にする姿勢から世代間のつながりを生むことを意図した考えでした。

第３位は、「最初は強制的に参加してもらおう」という意見であり、世代間の交流に参加する機会を作ることを意図した考えでした。

＜討議結果のまとめ＞

討議3 『地域において世代間のつながりを生むのはこれだ！』

＜投票の結果＞

第一位	25票	リーダーの育成(地域・行政)
第二位	9票	つながりの基本は家庭(あいさつ、食事、季節の行事)
第三位	7票	最初は強制的に参加してもらう

票数	地域において世代間のつながりを生むのはこれだ！	班
9	つながりの基本は家庭(あいさつ、食事、季節の行事)	A
3	お年寄りの知識の活用	A
0	世代間の交流の場を作る	A
25	リーダーの育成(地域・行政)	B
3	地元密着型の小学校・公民館	B
5	高齢者が自らできる(意志・表示)	B
4	地域 ― 行事の参加、伝統の継承	C
3	行政 ― マラソン大会、交流の場	C
4	方法 ― 育成会と老人会の合流(昔のおもちゃ、お話を老人→子供へ)	C
2	地域でのつながり	D
5	学校等公共施設でのつながり	D
3	今後の行政の一層の協力	D
7	最初は強制的に参加してもらう	E
3	趣味や公民館活動を通じて参加してもらう	E
6	おしゃべりルームや音楽会でつながる	E
1	興味のある所からかかわる	F
4	活動の場の提供、ピアサポートの活用	F
5	深入りせず浅いながらも共通の所でつながる	F

討議3 『地域において世代間のつながりを生むのはこれだ！』

グループ

A

メンバー

大胡・岡田・塚越・藤田・成瀬・今井

作業スペース

現状・問題

- ・子どもが地域に居ない
- ・老人会を廃止した
- ・育成会が少ない
- ・名簿が作れない

お年寄りの知識活用

- ・知恵・知識・芸能、沢山の宝の山
- ・高齢者指導者に大切な子どもたちに楽しく教育
- ・元気な高齢者に農作業など教えてもらう
- ・年寄りの持っている技術・知恵を活用し次世代に伝えるイベント

世代間の交流の場

- ・子どもを外の家に遊びに行かせる
- ・市のイベントを開催
- ・クラブ活動
- ・老人が学校行事に参加できるようにする
- ・農作業などしながら会話を楽しむ
- ・コミュニティ広場をつくる
- ・学校行事に参加
- ・日常から親しみを分かち合う
- ・きつねの嫁入り
- ・どんど祭り

意見のまとめ

- ◇つながりの基本は家庭(あいさつ・食事・季節の行事)
- ◇お年寄りの知識の活用
- ◇世代間の交流の場を作る

討議3 『地域において世代間のつながりを生むのはこれだ！』

グループ	メンバー
B	岩丸・金井・中島・黒澤・松井

作業スペース	
・高齢者宅から意思表示を発信 赤・黄・緑 等のカードで識別するなど	・公民館の利用 ・公共の行事を増やす ・公共施設 ・学校側からのボランティアの発信 ・くさむしり等 ・地域の小学校よりボランティア募集 ・小学校の役割 (子供を通し住人の関わり)
・交流ができている地域はそのまま継続していく ・ただのPRだけでは参加しづらい ・学校側(子どもから)招待状など ・子どももお年寄りもフリーに入ってこられる場所が必要 ・公民館などで世代交流	・世代という壁で区切られてしまう ・中間世代の関わりが薄い ・家族の世代構成と地域(社会)の世代構成がマッチしていない ・ボランティア主催のクリスマス会 ・日本語支援 ・回覧板ではなく直接の誘いが行きやすい

意見のまとめ

- ◇リーダーの育成(地域・行政)
- ◇地元密着型の小学校・公民館
- ◇高齢者が自らできる意思表示の仕組みづくり

討議3 『地域において世代間のつながりを生むのはこれだ！』

グループ	メンバー
C	米山・高井・星野・五十嵐・村本

作業スペース

地域
・祭りの参加 地域の伝統の場として利用 ・花植え作業 ・体操教室 ・地域の人たちがイベント参加しているが、どのように参加したら良いかわからない ・小学生を中心とした祭りや行事が世代間のつながりに障害になっていないか ・町々の伝統の継承 ・地域の花、野菜などの共同作業 ・ボウリング大会(大人・子供) ・お正月、墓参りに家族全員で参加する ・祭りに子供の参加が少ないように感じる
方法
・育成会と老人会を常に一緒に行動させる場を作る ・街の中の店など紹介する広報など活用 ・昔の手作りのおもちゃ(竹トンボ・わらじ作り・正月用のしめ飾りなど) 〃 ・古墳や文化財を子供に教えていく ・昔の地域のお話を高齢者に聞く ・交通パトロールの実施
行政
・子どもとお年寄りの交流の場の整備 ・行政の指導。場所の提供 ・高崎シティマラソンなどを開催する ・小学校の空き教室に同窓会のサロンを開設 〃

意見のまとめ

- ◇(地域) 行事の参加 伝統の継承
- ◇(行政) マラソン大会の開催 交流の場の提供
- ◇(方法) 育成会と老人会の合流(昔のおもちゃ、お話を老人→子供へ)

討議3 『地域において世代間のつながりを生むのはこれだ！』

グループ	メンバー
D	小林・南部・中村・小松・角田・飯塚

作業スペース

地域
・他の地域との交流 ・高齢者宅(特に一人暮らし)を訪問し、話をして状況を見る 〃 ・町内どおしの特に子供達だけの交流 〃 ・南八幡地域は年に一度高齢者を招待して芸能祭を行い、交流を深めている
学校
・里山体験(しいたけ・まいたけ・田植えの作業) ・子育てへの世代間の繋がり ・待機児童・幼児の託児ボランティア ・学校行事の親のサポート ・運動会、授業参観 ・託児ボランティア(幼稚園・小学校を中心に幼児・小児をみている) ・うどん作り教室(年間4～5回)地産地消 ・達人に学ぶ(中学生(2年生)を地域の高齢者10名のメンバーで毎年4回うどん打ち教室を開催) ・子供達の施設訪問(職場体験等)
行政
・行政側の発想転 ・少年・青年との交流をどのように持っていくか ・子どもと高齢者の出会いの場作り ・今後より一層の行政の協力

意見のまとめ

- ◇地域でのつながり
- ◇学校等公共施設でのつながり
- ◇今後の行政の一層の協力

討議3 『地域において世代間のつながりを生むのはこれだ！』

グループ	メンバー
E	春山・村田・反町・後閑・山田

作業スペース

要望	
・60～65歳は年金の関係で働くので70歳代がボランティアのカギ。男性がカギ ・お母さんの立場から少し上の人の交流(情報交換) ・子どもがキーワード ・努力してママ友をつくる ・若い世代をお年寄り世代とを合体させる ・仕事をしているのでなかなか地域の人とつながらない ・子どもと高齢者だけではなく、子育て世代は少し上のママたちにはなしを聞きたい	
手段	
・趣味の一致する人々からはじめる ・最初は強制的に集める ・訓練と祭りを重ねる	
結果	その他
・音楽会(子供、障害者、お年寄りが一緒に) ・イベントを通して世代間の繋がりをとる ・公民館でしゃべり場 ・しゃべり場月一回。だれでもOK ・おしゃべりルーム ・エニアグラムの先生 ・おしゃべりルームに時々、保健士が来る	・高齢者から知識を学ぶ ・地域の子供達とコミュニケーションを多くする ・町内の繋がりを強くする ・世代のギャップがあり、繋がりが持てない

意見のまとめ

- ◇最初は強制的に参加してもらう
- ◇趣味や公民館活動を通じて参加してもらう
- ◇おしゃべりルームや音楽会でつながる

討議3 『地域において世代間のつながりを生むのはこれだ！』

グループ	メンバー
F	村上・高山・安田・大植

作業スペース

- ・こまかく話せる世代が必要
- ・うまみのあるところから入っていく

- ・お祭り、運動会、各種趣味のコミュニケーション
- ・お話の会
- ・昔話
- ・高齢者の経験を聞く
- ・高齢者ピアサポートの活用

- ・共有できる領域を見つける
- ・自分と同じ境遇でないと共感もてないことがあり、つながりをもてる
- ・同一世代とつながりがないと異世代とのつながりがないかもしれない

意見のまとめ

- ◇興味のある所からかわる
- ◇活動の場の提供、ピアサポートの活用
- ◇深入りせず、浅いながらも共通の所でつながる

【討議４】『地域内のつながりを強くする便利なコミュニティバスはこれだ！』

＜討議の目的＞

地域内のつながりを強くするために、コミュニティバスを多くの方が利用して頂くにはどうしたら良いかを考える。

中心市街地とその他の地域のコミュニティバスでは、問題状況が異なるためそれぞれについて分けて討議する。

＜情報提供の内容＞

高崎市市民部地域交通課課長 船渡川肇氏より、コミュニティバスが地域内のつながりを強くするために必要であること、高崎市のコミュニティバスについての現状と課題、他の市町村のコミュニティバスの紹介などについてご説明いただきました。

討議の参考資料として、ぐるりん等の運行路線図・時刻表、高崎の広域地図を配布しました。

＜討議結果の考察＞

中心市街地のコミュニティバスとその他の地域のコミュニティバスについて、それぞれ意見をまとめ、投票を行いました。

中心市街地のコミュニティバスについて、全体投票の結果、第１位となったのは「自転車の積めるバス」という車体の改善を求める意見であり、自転車で通勤通学している方が、雨が降っている時などバスを利用しやすくすることを意図した考えでした。第２位は、「市の職員が率先して利用する」という利用者が少ないことに対するPR方法についての意見でした。第３位は、「時間—最終便」という運行時間についての意見であり、運行時間を延長して中心市街地に夜間飲食等で訪れていた人が利用できるように改善を求める考えでした。

その他の地域のコミュニティバスについて、全体投票の結果、第１位となった意見は同じ得票数で二つとなりました。一つは、「試乗券の発行」というサービスに関する意見であり、コミュニティバスを利用したことがない方に対してコミュニティバスを利用するきっかけをつくる考えでした。もう一つは「観光名所等の（イベント）に行く臨時バス」というサービスに関する意見であり、もっと「ぐるりん」などコミュニティバスを楽しんだらよいのではないかという考えでした。第３位は、「弱者のための運行（停留所にベンチなど）」というバスを待つ方のために停留所にベンチや雨や日よけの屋根を設けてほしいという意見でした。

＜討議結果のまとめ＞

討議4 『地域内のつながりを強くする便利なコミュニティバスはこれだ！』

ワーク1

＜投票の結果＞

第一位	18票	自転車の積めるバス
第二位	15票	市の職員が率先して利用する
第三位	11票	時間 — 最終便

※第一位の18票はA班とD班の意見の合計です。

票数	地域内のつながりを強くする便利なコミュニティバスはこれだ！ (中心市街地のコミュニティバス)	班
2	利用ができない理由	A
3	運行本数が少ない	A
11	自転車の積めるバス	A
1	バスの改善、改良	B
9	運行方法の工夫	B
5	バス広告などの活用	B
5	魅力あるバスへ(外観を募集、子ども達からアイデアをつくる)	C
2	利用場所の選べるバス(フリーバス)	C
15	市の職員が率先して利用する	C
6	ぐるりんを知らないなのでPRが必要(イベントなどにあわせて無料)	D
4	小型車をひんぱんに出す(時間短縮)	D
7	自転車が乗せられるバスが必要(中心、地域の両方)	D
0	乗り方が解らない(ぐるりんの内容把握)	E
8	ポイントをつける、車体に路線図を入れる(色分けする)	E
5	体験ツアー	E
2	料金 — 料金を見直し、利用しやすく	F
11	時間 — 最終便	F
4	デザイン — 車体にラッピング	F

討議4-1 『地域内のつながりを強くするコミュニティバスはこれだ』

グループ	メンバー
A	春山・村本・岡田・後閑・中村・星野

ワーク1 中心市街地のコミュニティバス

利用が少ない
・回数が少ないので利用しにくい ・目的地の利用回数 ・運行時間 ・運行時間が悪い ・路線が少ない

バス停の位置
・バス停位置の効率を考える ・アクセスの良い時間がない

時間帯
・時間がかかり過ぎ

その他
・バスの小型化 ・バスの乗り降りが簡単になると良いのでは？

意見のまとめ

- ◇利用ができない理由
- ◇運行本数が少ない
- ◇自転車の積めるバス

討議4-1 『地域内のつながりを強くするコミュニティバスはこれだ』

グループ	メンバー
B	黒澤・五十嵐・塚越・高山・大植

ワーク1 中心市街地のコミュニティバス

車と設備
・シャトルバスの活用(ある特定の場所。学校や病院など) ・車を小型化する ・デマンドバス ・バスの降り場がわかりづらさがある ・目的先によりバスの色分けをする
運行方法
・弱者の為に走ってほしい ・利用目的により時間を変える ・利用目的別行き先活用 ・周回コースを短く
コスト
・民間のバス会社の力を発揮させる ・バスの車体に広告料を取り運営協力を得る ・料金の価格(カード利用とか)

意見のまとめ

- ◇バスの改善、改革
- ◇運行方法の工夫
- ◇バスの広告などの活用

討議4-1 『地域内のつながりを強くするコミュニティバスはこれだ』

グループ	メンバー
C	小林・角田・安田・反町・藤田

ワーク1 中心市街地のコミュニティバス

どうしたら利用するのか？
・バスをもっと小型化する ・バス停以外の場所で止まれたらいいのでは？ ・バスに乗車する時には運転手にわかるよう大きく手を挙げ合図を送り何処でも停まれたらよいのでは？ ・車を一カ所に集めてバスを利用 ・バスをプリウスに ・2階建てオープンバス ・夜の飲み屋のフォローをする ・子供の塾のフォローをする ・時間帯の変更 ・最低、終電時間に合わせる ・マイカーを利用しない人は割引する ・ポイント制 ・バスを利用し工場見学 ・子供に魅力あるバス ・荷物を持ってくれる ・バスの外観を良くする

意見のまとめ

- ◇魅力あるバスへ(外観のデザインを子供達から募集する)
- ◇利用場所の選べるバス(フリーバス)
- ◇市の職員が率先して利用する

討議4ー1 『地域内のつながりを強くするコミュニティバスはこれだ』

グループ	メンバー
D	中島・岩丸・山田・南部・村田

ワーク1 中心市街地のコミュニティバス

問題点・現状
・地域にぐるりん停留所があると便利だが道路が狭いため止まらない ・全停留所に車椅子での利用は、予算の関係上むりなのか？ ・弱者の為のバスとしての利用が多い(障害者、ベビーカー利用) ・飲み会などの帰りに利用することが多い ・車があるので利用した事がない
解決案
・ビジネスマンが使えるコミュニティバス ・バス利用によって人を動かす(イベント等に合わせて) ・小型車にして頻繁に出してもらう ・自転車レンタル場とバス停を一緒にする ・ベビーカー、車椅子が利用しやすい停留場にする ・コミュニティバス利用で特典を増やす ・自転車が乗せられるバスが必要

意見のまとめ

- ◇「ぐるりん」を知らないなのでPRが必要(イベントなどにあわせて無料など)
- ◇小型車を頻繁に出す(時間短縮)
- ◇自転車が乗せられるバスが必要(中心市街地、地域の両方)

討議4-1 『地域内のつながりを強くするコミュニティバスはこれだ』

グループ	メンバー
E	村上・大胡・松井・成瀬・金井

ワーク1 中心市街地のコミュニティバス

現状
・乗り方がわからない ・どこを走っているかわかりづらい ・バスをつかわない ・「ぐるりん」の乗り方がわからない ・利用出来るように工夫する ・時間がないと使わない ・アピールが足りない ・市外の方へのアピール

提案・希望
・表示の工夫 ・目的別に色分けする ・車体に地図を入れる ・買い物専用バス、目的別バス ・「ぐるりん」体験ツアー ・利用者にポイントを渡す。ためると1回無料 ・「ぐるりん」を利用したら買い物割引ポイント

意見のまとめ

- ◇乗り方がわからない(「ぐるりん」の内容把握)
- ◇ポイントをつける、車体に路線図を入れ、色分けする
- ◇体験ツアー

討議4-1 『地域内のつながりを強くするコミュニティバスはこれだ』

グループ	メンバー
F	米山・高井・飯塚・小松・今井

ワーク1 中心市街地のコミュニティバス

料金
・市内は無料にする ・市内循環バス買い物客に利用してもらう ・市内専用の小型バスを走らせる(電気自動車) ・市内は乗り降り自由にする

時間
・最終便の時刻が早い。22時まで走らせて ・市職員は使っているのか？

デザイン
・キャラクターでデコレーション ・幼少児が喜ぶデザインバス ・デザインの公募、高崎市独自のキャラクター

意見のまとめ

- ◇料金 — 料金を見直し利用しやすくする。Suica利用可にする
- ◇時間 — 最終便を遅く
- ◇デザイン — 車体にラッピング

討議4 『地域内のつながりを強くする便利なコミュニティバスはこれだ！』

ワーク2

<投票の結果>

第一位	15票	試乗券の発行
〃	15票	観光名所等の(イベント)に行く臨時バス
第三位	9票	弱者のための運行(停留所にベンチなど)

票数	地域内のつながりを強くする便利なコミュニティバスはこれだ！ (その他の地域のコミュニティバス)	班
3	利用ができない(接続が悪い)	A
3	運行本数が少ない(不便)	A
3	行政(依頼)	A
5	年代に応じたバス運行時間の検討、PR	B
9	弱者のための運行(停留所にベンチなど)	B
15	試乗券の発行	B
3	バス内での移動販売	C
5	地域に密着した運転手(知り合いがドライバー)	C
3	目的別バス	C
4	郊外の温泉+バス利用券(無料もしくは格安)	D
5	乗り継ぎ場所を増やす	D
4	スイミングスクールの送迎などとの合同運営	D
2	情報をきめ細かくする(公報、車体、町内会等での徹底する)	E
15	観光名所等の(イベント)に行く臨時バス	E
6	ぐるりんと移動販売の合体、お座敷ぐるりん	E
0	行事との連動	F
0	使い勝手	F
0	料金と時刻	F

討議4-2 『地域内のつながりを強くするコミュニティバスはこれだ』

グループ	メンバー
A	春山・村本・岡田・後閑・中村・星野

ワーク2 その他の地域のコミュニティバス

バスの小型化
・乗り合いタクシー的なものが良い ・公共バスのPRと利用者がわかるようにする ・バスの小型化 ・前日に申し込まれてタクシーのように小さな車で回る
利用方法
・公民館活動に合わせてバスを出してほしい ・病院に迎えにくる ・利用する時間がかかる ・「ぐるりん」の活用方法がわからない ・「ぐるりん」の乗り方がわからない
行政依頼
・他の交通機関と連結出来るように運行 ・電車の到着とバスの出発をあわせる ・回数が少ないので利用出来ない ・バス停を屋根付きにする ・自転車に乗れるバス ・利用券の発行

意見のまとめ

- ◇利用ができない(接続が悪い)
- ◇運行本数が少ない(不便)
- ◇行政(依頼)

討議4-2 『地域内のつながりを強くするコミュニティバスはこれだ』

グループ

B

メンバー

黒澤・五十嵐・塚越・高山・大植

ワーク2 その他の地域のコミュニティバス

- ・長寿センターで待っているバス利用(送迎、買い物時間帯を待つバス)
- ・お買い物バス
- ・観光としてバスの活用。他県の方が来てもわかりやすく
- ・若者から高齢者まで遠方へ行きやすい路線を

- ・弱者の為の運行を
- ・雨よけの出来る場所がない停留所
- ・停留所にベンチが欲しい

- ・1回分の無料試乗券発行
- ・遠方者へは群馬の特色をアピールする広報など

意見のまとめ

- ◇年代に応じたバス運行時間の検討、PR
- ◇弱者の為の運行(停留所にベンチなど)
- ◇試乗券の発行

討議4-2 『地域内のつながりを強くするコミュニティバスはこれだ』

グループ	メンバー
C	小林・角田・安田・反町・藤田

ワーク2 その他の地域のコミュニティバス

どうしたら利用するか
・バスは小型に ・女性がガイド ・女性ドライバー ・「ぐるりん」の移動販売 ・顔がわかる運転手 ・病院に行くルートと学校に行くルート、一本道だろうから停まる

意見のまとめ

- ◇バス内での移動販売
- ◇地域に密着した運転手（知り合いがドライバー）
- ◇目的別バス

討議4-2 『地域内のつながりを強くするコミュニティバスはこれだ』

グループ	メンバー
D	中島・岩丸・山田・南部・村田

ワーク2 その他の地域のコミュニティバス

問題点
・乗車場に自転車置き場が必要 ・乗り継ぎが出来ない ・コミュニティバスの存在を知らない

解決案
・郊外の温泉＋バス利用（無料もしくは格安） ・トイレ付きバス ・スイミングバス（スポーツ施設）の送迎との合体

意見のまとめ

- ◇郊外の温泉＋バス利用（無料もしくは格安）
- ◇乗り継ぎ場所を増やす
- ◇スイミングスクールの送迎などとの合同運営

討議4-2 『地域内のつながりを強くするコミュニティバスはこれだ』

グループ	メンバー
E	村上・大胡・松井・成瀬・金井

ワーク2 その他の地域のコミュニティバス

情報発信

- ・情報をきめ細かく知らせる
- ・広報に情報をわかりやすく載せる
- ・体験ツアーを行う。物産、野菜、季節（芝さくら、冬さくら）
- ・美術館、博物館回り

希望

- ・病院、買い物など小さい車（乗り合いタクシー）
- ・バス停に物産物を置く、無人販売店
- ・「お座敷ぐるりん」
- ・芝桜、きつねの嫁入りなどイベントの所に行くシャトルバス
- ・お年寄りにも利用してもらえる様、民生委員さんや介護支援の方に乗り方を教えてもらう
- ・一緒に買い物に行ったりしてもらう
- ・「ぐるりん」バスと移動販売の合体

意見のまとめ

- ◇情報をきめ細かくする（広報、車体、町内会等で徹底する）
- ◇観光名所等のイベントに行く臨時バス
- ◇「ぐるりん」と移動販売の合体、「お座敷ぐるりん」

討議4-2 『地域内のつながりを強くするコミュニティバスはこれだ』

グループ	メンバー
F	米山・高井・飯塚・小松・今井

ワーク2 その他の地域のコミュニティバス

料金
・利用料金の見直し ・Suicaが使えるといい ・老人や子供は料金を割り引く
時刻
・JRの最終便に合わせる ・バスに乗った方が得だと思うように。バス専用車線とか ・定時運行を守って欲しい。次の便がバス停に来るまでの参考時間が見たい ・駅起点の最終便の時刻が早すぎ
使い勝手
・クッションを変えて乗り心地をよくしてほしい ・目立つバス停 ・乗る方にポイントスタンプでプレゼントして買い物券配布 ・バス停には最低ベンチが欲しい。雨を避ける屋根 ・環状線に路線を造り買い物出来るようにする ・路線の一部には駅まで行かないと隣接路線に乗れないものがある ・緊急時の方にも停まってもらえる印を作る
行事との連動
・学校行事でバスを使ってもらう ・地域のイベント時に人を集める為に回るバス ・日曜祝日などに観光地を回るバスを走らせる

意見のまとめ

- ◇行事との連携
- ◇使い勝手
- ◇料金と時刻

【討議５】 『つながりから生まれる中心市街地の活性化はこれだ！』

＜討議の目的＞

中心市街地を活性化するためには、市民が積極的に中心市街地に関わってつながり、これに対し行政が協力することも必要であるといえることから、市民が中心市街地に積極的に関わって行きたくなるような具体的な方策を考える。

＜情報提供の内容＞

Cafe あすなろ スタッフ 鈴木隆宏氏から、中心市街地に積極的に関わっている市民の立場で、中心市街地に関わってみた感想、中心市街地への愛着、今後どのように中心市街地に関わっていきたいかをお話いただきました。

また、高崎中部名店街 理事 綱島直也氏から、商店を経営する商業者の立場で、商店街で活動する人同士のつながりの現状と、中心市街地の活性化のために行っている取り組みについてお話いただきました。

＜討議結果の考察＞

全体投票の結果、第１位は「支援の場のPR（高崎を盛り上げる為の場所、資金、道具）全国に」という広報に関する意見でした。

第２位は「空き店舗にはアンテナショップに入って欲しい」という空き店舗の利用方法に関する意見でした。なお、空き店舗の利用方法に関しては、若い人、子ども連れの方が利用しやすいようにするといった意見や、特に退職者の男性が参加できる店といった意見も多く得ていました。

第３位は、同じ得票数で３つの意見が並びました。すなわち、「〇〇と言えば高崎というように（ブランド作り）」「魅力ある名物、商店街の集約化を図る」「商店街—惣菜を中心とした食料品を増やす」という３つの意見であり、前２者は地域ブランドに関する意見でした。

＜討議結果のまとめ＞

討議5 『つながりから生まれる中心市街地の活性化はこれだ！』

＜投票の結果＞

第一位	14票	高崎を盛り上げる為に全国に参画のPRを！（高崎を盛り上げる為の場所・資金・道具）
第二位	12票	空き店舗にはアンテナショップに入って欲しい
第三位	9票	〇〇と言えば高崎と言うように（ブランド作り）
〃	9票	魅力ある名物、商店街の集約化を図る
〃	9票	商店街 ― 惣菜を中心とした食料品を増やす

票数	つながりから生まれる中心市街地の活性化はこれだ！	班
7	空き店舗の活用（若い人、子供連れ）（駐輪場）	A
1	特色のあるイベント	A
4	魅力のある町	A
0	目的ときっかけがないと高崎に出てこない	B
14	支援の場のPR（高崎を盛り上げる為の場所、資金、道具）全国に	B
9	〇〇と言えば高崎と言うように（ブランド作り）	B
1	販売方法、リピーターを増やす	C
2	駐車場の確保	C
9	魅力ある名物、商店街の集約化を図る	C
0	市街地 ― さびれた原因、高校の移転、映画館廃業	D
9	商店街 ― 惣菜を中心とした食料品を増やす	D
8	コンセプトのある商店街、ゆるキャラ、パスタの街を強調	D
1	コミュニティセンター中心に商店があるといいな	E
1	若者が行きたがる店	E
12	空き店舗にはアンテナショップに入って欲しい	E
0	イベント（老若男女参加、情報の発信）	F
7	空き店舗（特に退職者の男性が参加できる店）、一般の市民が気軽に発表できる場所	F
8	いこいの場（ミニ公園、足湯、ロータリー、トイレ、市場（1業種、1店舗）	F

討議5 『つながりから生まれる中心市街地活性化はこれだ！』

グループ	メンバー
A	村本・高井・高山・安田・松井・後閑

作業スペース

・夢のある店づくり(子供) ・思い出のある街づくり ・人を集める思い出の場 ・自転車でも来店出来る駐輪スペース。規則改善 ・子供が買い入れできるお店の出店を ・魅力ある店づくり ・利便性 ・メリットのある店づくり

・商店街イベントを通じて集客 ・イベント事は多々あるが知らない人たちが多い ・人との出会いを楽しめる場に ・くじ引き、単独ではなく何店かスタンプを集める

意見のまとめ

- ◇空き店舗の活用(若い人、子供連れ)(駐輪場)
- ◇特色のあるイベント
- ◇魅力ある街

討議5 『つながりから生まれる中心市街地活性化はこれだ！』

グループ	メンバー
B	中島・今井・角田・小松・岩丸

作業スペース

問題点
・休憩場所が少ない ・商品が少ない ・スーパーがない。目的のものを買うのに移動が必要 ・世代によりコミュニケーションレベルが違う ・今は市街地はとても静か ・お祭り、音楽センターなどにしか来ない ・ドール等の格安のカフェがない ・サラリーマンの休憩場所がない ・高崎地域の再生、市街地のシンボルを作る ・市街地へ行く目的、きっかけがない→あれば行く
解決策
・商店街のカンパニー化→人と繋がる ・年配者が病院で時間をつぶすより、お店で時間をつぶしたくなる様な雰囲気づくり ・中央銀座のアーケード街の利用を考える ・高崎ブランドをつくる ・駐車場の整備、店舗の照明 ・高崎のグローバル化
その他
・市街地人口を増やす ・映画の街 ・高崎のシンボル ・外に広がる市街地化を見直す ・コミュニティ広場、お金を使いたくなる様な店づくり ・店舗の存在感のPR ・食べ物を中心とした街づくり ・市街地へ行くきっかけを作る ・傍観者ではなく参加者になる ・コンサート等、イベントへの参加

意見のまとめ

- ◇目的ときっかけがないと高崎に出てこない
- ◇高崎を盛り上げる為に全国に参画のPRを！（場所・資金・道具）
- ◇〇〇と言えば高崎と言えるように（ブランドづくり）

討議5 『つながりから生まれる中心市街地活性化はこれだ！』

グループ	メンバー
C	大植・中村・春山・米山・小林

作業スペース
・店のPR活動、ホームページに記載する ・お買い物スタンプラリー（例えば洋品と靴屋さん） ・一般の方への店舗コーナーを貸す ・高崎の名物を作るイベントグルメ ・駐車場の料金をリーズナブルに ・市営の駐車場を小さな店に解放するか割引する ・商店街の集約化を図る ・旧市内では親子が楽しめる買い物が出来ない ・外部に大型店が進出している ・旧市内では専門店が少ない ・旧市内では大型駐車場が少ない ・旧市内では販売している品物の種類が少ない ・駐車場の共有をして使用。小さい店などは駐車場が少ない ・100周年で出したオランダコロッケを復活させる。手軽に食べられるように ・市内の食堂の食べ歩き、その場合は駐車料金は無料にする ・高崎の名菓、日替わりショップ ・高崎パスタ屋さん、日替わり店舗（めん1グランプリ）

意見のまとめ

- ◇販売方法 リピーターを増やす
- ◇駐車場の確保
- ◇魅力ある名物、商店街の集約化を図る

討議5 『つながりから生まれる中心市街地活性化はこれだ！』

グループ	メンバー
D	塚越・村上・岡田・村田・星野

作業スペース						
<table> <tr> <th>さびれた原因</th></tr> <tr> <td> ・高校の移転により市街地の空白化 ・映画館がなくなった ・市街地への集合住宅を建設による市営、県営住宅 ・大型商店（スズラン、高島屋）と商店街の協賛イベント ・商店街からなくなってしまったからダメになった </td></tr> <tr> <th>商店街の活性</th></tr> <tr> <td> ・商店街再編成 ・専門店街通り ・食料品をそろえる ・イベントを毎日やる。夜店、映画 ・年代・地域に合ったものを提供する ・専門店化を目指した商店への脱皮 ・高崎祭りを参考にして美しく、楽しく時を過ごせる場所を作る ・桜並木広場、ステージ、バスでも来やすく ・きれいな街づくり ・行きたくない街、個人商店街 </td></tr> <tr> <th>レジャー化する</th></tr> <tr> <td> ・大型店舗をなくす ・高校生が魅力に思えるお店 ・誰もが行きたくない様なお店を作る ・街中を公園に（昔ながらの特徴のある場所） ・地産地消の推進 ・街中に高齢者の居場所がない（お茶会、座って話し合えるところ、憩いの場所） ・商店内にカルチャーセンターがあるといい。（帰りお買い物出来る） </td></tr> </table>	さびれた原因	・高校の移転により市街地の空白化 ・映画館がなくなった ・市街地への集合住宅を建設による市営、県営住宅 ・大型商店（スズラン、高島屋）と商店街の協賛イベント ・商店街からなくなってしまったからダメになった	商店街の活性	・商店街再編成 ・専門店街通り ・食料品をそろえる ・イベントを毎日やる。夜店、映画 ・年代・地域に合ったものを提供する ・専門店化を目指した商店への脱皮 ・高崎祭りを参考にして美しく、楽しく時を過ごせる場所を作る ・桜並木広場、ステージ、バスでも来やすく ・きれいな街づくり ・行きたくない街、個人商店街	レジャー化する	・大型店舗をなくす ・高校生が魅力に思えるお店 ・誰もが行きたくない様なお店を作る ・街中を公園に（昔ながらの特徴のある場所） ・地産地消の推進 ・街中に高齢者の居場所がない（お茶会、座って話し合えるところ、憩いの場所） ・商店内にカルチャーセンターがあるといい。（帰りお買い物出来る）
さびれた原因						
・高校の移転により市街地の空白化 ・映画館がなくなった ・市街地への集合住宅を建設による市営、県営住宅 ・大型商店（スズラン、高島屋）と商店街の協賛イベント ・商店街からなくなってしまったからダメになった						
商店街の活性						
・商店街再編成 ・専門店街通り ・食料品をそろえる ・イベントを毎日やる。夜店、映画 ・年代・地域に合ったものを提供する ・専門店化を目指した商店への脱皮 ・高崎祭りを参考にして美しく、楽しく時を過ごせる場所を作る ・桜並木広場、ステージ、バスでも来やすく ・きれいな街づくり ・行きたくない街、個人商店街						
レジャー化する						
・大型店舗をなくす ・高校生が魅力に思えるお店 ・誰もが行きたくない様なお店を作る ・街中を公園に（昔ながらの特徴のある場所） ・地産地消の推進 ・街中に高齢者の居場所がない（お茶会、座って話し合えるところ、憩いの場所） ・商店内にカルチャーセンターがあるといい。（帰りお買い物出来る）						

意見のまとめ

- ◇市街地 — さびれた原因、高校の移転、映画館廃業
- ◇商店街 — 惣菜を中心とした食料品を増やす
- ◇コンセプトのある商店街。ゆるキャラ、パスタの街を強調

討議5 『つながりから生まれる中心市街地活性化はこれだ！』

グループ	メンバー
E	飯塚・成瀬・大胡・山田・南部

作業スペース						
<table> <tr> <th>現状</th></tr> <tr> <td> ・小さい店は品数が少なく他店も見比べたい ・自転車の利用(駅前から)今現在あるが自転車がない ・小さい店に入ったらなにか買うまで出られない ・高崎市で貸し出し自転車が借りられない ・小さい店で買い物が済まない。買い物袋を下げ他の店に入ると違和感がある ・デパートに行く事は時々あるが個人商店にはあまり行かない </td></tr> <tr> <th>中心街の利点</th></tr> <tr> <td> ・商店街が開いていると明るいし安心 ・防犯対策のとれた商店街 </td></tr> <tr> <th>希望する商店像</th></tr> <tr> <td> ・目的とする魅力がある店があるといい。東京の有名店 ・よりたくなる店、アンテナショップ ・魅力ある店舗を作ってほしい ・空き店舗に東京にある様なアンテナショップに順番に入ってもらう ・飲み屋さんがたくさんあるといい ・群馬銀行のメインバンク高崎駅近くに欲しい ・若い世代が子供を連れて行ける公園を中心に、買い物ができる ・ベビーカーをつれてまちなか散策をしたい ・通路のがたがたが危ない ・ショッピングモール化したまちづくり ・買い物がしやすい ・個々のお店の個性を演出、店の前にコーヒーベンチ ・景観をおしゃれにする ・買い物は一カ所で済ませたい </td></tr> </table>	現状	・小さい店は品数が少なく他店も見比べたい ・自転車の利用(駅前から)今現在あるが自転車がない ・小さい店に入ったらなにか買うまで出られない ・高崎市で貸し出し自転車が借りられない ・小さい店で買い物が済まない。買い物袋を下げ他の店に入ると違和感がある ・デパートに行く事は時々あるが個人商店にはあまり行かない	中心街の利点	・商店街が開いていると明るいし安心 ・防犯対策のとれた商店街	希望する商店像	・目的とする魅力がある店があるといい。東京の有名店 ・よりたくなる店、アンテナショップ ・魅力ある店舗を作ってほしい ・空き店舗に東京にある様なアンテナショップに順番に入ってもらう ・飲み屋さんがたくさんあるといい ・群馬銀行のメインバンク高崎駅近くに欲しい ・若い世代が子供を連れて行ける公園を中心に、買い物ができる ・ベビーカーをつれてまちなか散策をしたい ・通路のがたがたが危ない ・ショッピングモール化したまちづくり ・買い物がしやすい ・個々のお店の個性を演出、店の前にコーヒーベンチ ・景観をおしゃれにする ・買い物は一カ所で済ませたい
現状						
・小さい店は品数が少なく他店も見比べたい ・自転車の利用(駅前から)今現在あるが自転車がない ・小さい店に入ったらなにか買うまで出られない ・高崎市で貸し出し自転車が借りられない ・小さい店で買い物が済まない。買い物袋を下げ他の店に入ると違和感がある ・デパートに行く事は時々あるが個人商店にはあまり行かない						
中心街の利点						
・商店街が開いていると明るいし安心 ・防犯対策のとれた商店街						
希望する商店像						
・目的とする魅力がある店があるといい。東京の有名店 ・よりたくなる店、アンテナショップ ・魅力ある店舗を作ってほしい ・空き店舗に東京にある様なアンテナショップに順番に入ってもらう ・飲み屋さんがたくさんあるといい ・群馬銀行のメインバンク高崎駅近くに欲しい ・若い世代が子供を連れて行ける公園を中心に、買い物ができる ・ベビーカーをつれてまちなか散策をしたい ・通路のがたがたが危ない ・ショッピングモール化したまちづくり ・買い物がしやすい ・個々のお店の個性を演出、店の前にコーヒーベンチ ・景観をおしゃれにする ・買い物は一カ所で済ませたい						

意見のまとめ
◇コミュニティセンター中心に商店街があるといいな ◇若者が行きたがる店 ◇空き店舗にはアンテナショップに入ってほしい

討議5 『つながりから生まれる中心市街地活性化はこれだ！』

グループ	メンバー
F	金井・藤田・反町・黒沢・五十嵐

作業スペース

イベント
・イベントを開催して市民が参加出来るようにする ・子供向けイベント、お年寄り向けイベント ・イベント情報の発信（駐車場の問題）
空き店舗
・空き店舗の利用（美術展、写真展、手芸展） ・退職者の男性が参加出来るイベント
憩いの場
・まちなかミニ公園 ・足湯があったらいい（買い物の待ち時間） ・商店街の中にロータリー（噴水、休憩所、トイレの充実） ・フリーマーケットの定着化の為に駐車場対策）

意見のまとめ

- ◇イベント（老若男女参加、情報の発信）
- ◇空き店舗（特に退職者の男性が参加出来る店）
一般の市民が気軽に発表できる場所
- ◇憩いの場（ミニ公園、足湯、ロータリー、トイレ、市場）

【討議6】 『暮らし続けたい街たかさき』 一番重要なつながりはこれ

だ！

＜討議の目的＞

これまで検討したつながりについての意見を振り返り、高崎が暮らし続けたい街であるために一番重要なつながりについて優先順位を確定すること。

＜情報提供の内容＞

一番重要なつながりは何であるかを考えるための参考となるように、討議1から討議5まで、どのようなテーマを議論してきたかを振り返りました。

＜討議結果の考察＞

全体投票の結果、第1位は「子育て支援（補助金，安心して共働きできる）」という意見であり、住み続けるためには子育てが安心してできなければならないという観点からの考えでした。

第2位は「2世帯3世帯の住宅の支援（金銭的）」という意見であり、地域と家庭を結び、つながりを維持するために必要な施策という観点からの意見でした。

第3位は、同順位が二つありました。一つ目は「行政や社会すべてを成り立つには、受け身ではなく個人自ら発信していける様な社会。社会の中の個人ではなく、私たちが社会を造り上げていく発想が大切！」という市民が積極的に活動すべきという意見でした。もう一つは、「医療体制の充実」というつながりの前提として健康であることが必要という意見でした。

<討議結果のまとめ>

討議6 『暮らし続けたい街たかさき』 一番重要なつながりはこれだ！

<投票の結果>

第一位	17票	子育て支援(補助金、安心して共働きできる)
第二位	14票	2世帯3世帯の住宅の支援(金銭的)
第三位	11票	行政や社会すべてを成り立つには、受身ではなく個人自ら発進していきける様な社会。社会の中の個人ではなく、私たちが社会を造り上げて行く発想が大切！
〃	11票	医療体制の充実

票数	『暮らし続けたい街たかさき』 一番重要なつながりはこれだ！	班
8	安心・安全・親切的な行政の対応、道路網の整備	A
3	基本として家族、ご近所、地域のつながり(あいさつから)	A
4	更に深める為につながる場を作る、参加する 市民討議会(様々な世代の人たちとの)の場を頻繁に行ってもらう	A
0	交通の要地であり温泉文化財等の観光資源に恵まれている	B
2	現状としては買物難民が発生している	B
7	人との結びつき、買物ヘルパー(移動販売店含む)や小売店を増加し、老いても安心して住める街	B
11	行政や社会すべてを成り立つには、受身ではなく個人自ら発進していきける様な社会。社会の中の個人ではなく、私たちが社会を造り上げて行く発想が大切！	C
4	各町内に公民館や集会所を作って欲しい	D
1	町内に役割分担を作り全員参加	D
7	大切なのは思いやる気持ち、助け合う気持ち	D
11	医療体制の充実	E
0	教育面の充実	E
0	情報開示	E
14	2世帯3世帯の住宅の支援(金銭的)	F
17	子育て支援(補助金、安心して共働きできる)	F
4	隣保班、行政区のつながり	F

討議6 『暮らし続けたい街たかさき』 一番重要なつながりはこれだ！

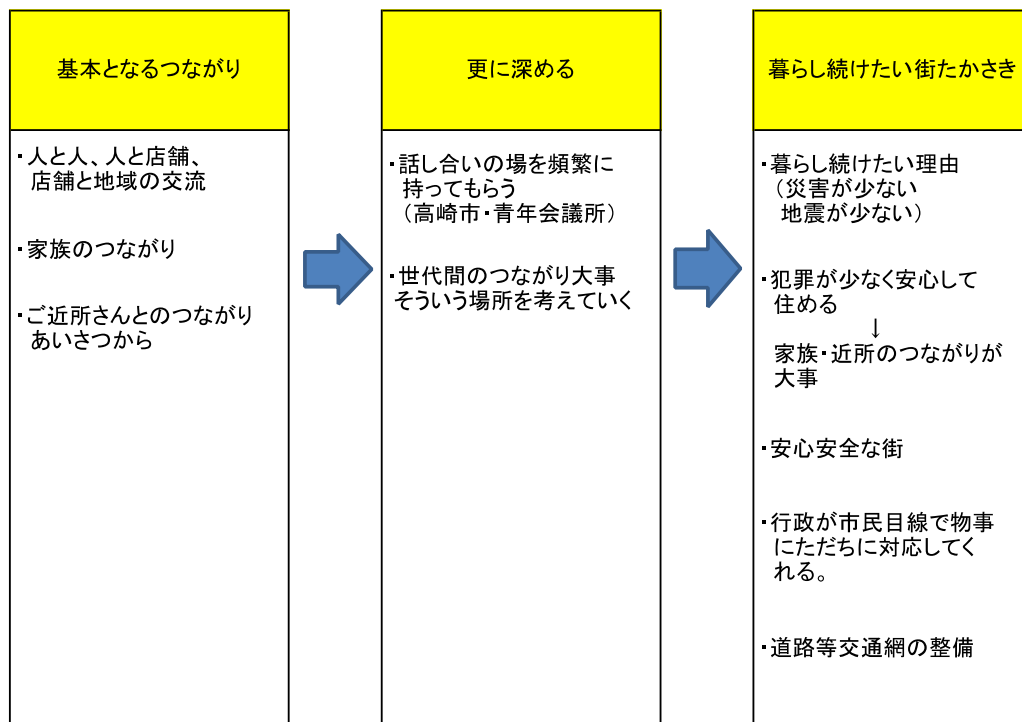
グループ

A

メンバー

小松・角田・大植・金井・藤田・五十嵐

作業スペース



意見のまとめ

- ◇ 安心・安全、親切的な行政の対応、道路網の整備
- ◇ 基本として家族、ご近所、地域のつながり(あいさつから)
- ◇ さらに深める為につなげる場を作る。参加する。
市民討議会(様々な世代の人達との場)を頻繁に行ってもらう

討議6 『暮らし続けたい街たかさき』 一番重要なつながりはこれだ！

グループ

B

メンバー

松井・南部・中村・星野・後閑

作業スペース

高崎の良い点	対策	高崎の現状
・交通の要地であること ・経済的に豊かである ・観光資源を有効利用するためのバス運行 ・イベントが充実している ・温泉が多い ・歴史文化財が多い	・人との結びつき ・高齢化社会に向けてJRとバスのジョイントを便利にする ・老いても住める街 ・Uターン市民、受け入れ体制 空き店舗の住居部分 ・地産地消に力を入れ産業を活性化させる ・人とのつながり（縁だったり） まずはいろんな物に参加する	・買物難民にならない為に… ・買物ヘルパー ・空き店舗にUターン市民先に↑ ・住宅問題（年齢により異なってくる） ・地域の高齢者の買い物が近くでできないで困っている人が多い。 ・個人商店がなくなってきて不便になっている。

意見のまとめ

- ◇ 交通の要地であり温泉文化財等の観光資源に恵まれている
- ◇ 現状としては買物難民が発生している
- ◇ 人との結びつき、買物ヘルパー（移動販売店を含む）や小売店を増加し、老いても安心して住める街

討議6 『暮らし続けたい街たかさき』 一番重要なつながりはこれだ！

グループ

C

メンバー

高山・村上・大胡・黒澤・中島

作業スペース

人 ⇄ 人

- | | | |
|--|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自分達の生活だけでなく他者も心やすらげる場所でない人と人とのつながりは生まれないので、すべての人が安らげる場所 ・個人が何らかの意見を今日の会議の様に意見交換ができ反映できる社会へ ・心の居場所がある地域づくりが必要である | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションのとれる街 ・安心して過ごせる場所（昼も夜も） ・世代間のつながり大事
そういう場所を考えていく ・衣・食・住
活動しやすい距離
小さなコミュから大きなコミュへのつながり | <ul style="list-style-type: none"> ・安心して住める街
→ 病気 相続 ・家族が安心して活動できる場所であること |
|--|--|---|

公 共

- | | | |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・何でも相談出来る人がいるといい。 ・人にやさしい街 ・日本一交通マナーが良い ・誰とでも気やすく声がかけられる環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・くらし続けたい。 ・優しい町 ・優しい人 ・安心できる人、食 ・充実した休日がおくれる高崎 | <ul style="list-style-type: none"> ・病院が近いこと ・食の安全性 ・移動がすぐに出来る
(行きたい場所にすぐ行ける) ・住環境の整った街 |
|---|--|--|

経 済

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・家が持ちやすい ・生活費 ・永く住み続けることができる。 ・税金が安いといいな。 | <ul style="list-style-type: none"> ・すみやすい→定住→税金安く ・企業誘致
 → 税収増と個人の生活が楽になる○○ |
|--|--|

- ・樹木の多い街
- ・いいいのある街 イス、トイレ、足湯
- ・イベントに楽しく参加出来るために、ぐるりんバスをうまく利用できたら

意見のまとめ

- ◇ 行政や社会すべてを成り立つには、受け身ではなく個人自ら発信していけるような社会。社会の中の個人ではなく、私たちが社会を作り上げていく発想が大切！！

討議6 『暮らし続けたい街たかさき』 一番重要なつながりはこれだ！

グループ

D

メンバー

岡田・小林・成瀬・米山・山田

作業スペース

場 所

- ・公民館のない町内には作ってもらいたいと思います。
- ・市街地には集会所や公民館がない
- ・各町内に公民館あるいは集会所を作って
- ・集会場を整備
* 地域の活躍の場をつくる
- ・公民館に老人だけでなく若い人も利用する。

つながる心

- ・町中をきれいにしたいような気がします。
- ・助け合う気持ちをもつ
- ・つながるためにつながる利点をわかってもらえるようにする。
- ・コミュニケーション不足を解消
- ・自分の住んでいる町内の人とのつながり
- ・趣味を通じてつながる
- ・中心となる団体からつながっていく

希 望

- ・行政が地域の一番の人を活用し、みんなに知らせる。
- ・小学校で若い世代から年寄り世代まで楽しめる講演会
- ・地域の名所などを廻れるミニツアーを計画する。
- ・市役所を中心に発信している。
- ・地域で一番の特技を持っている人にリーダーになってもらう
- ・町内で強制的に役割分担があり住民が何らか仕事をこなす
- ・地域に住む特技をもった人を探してそれを生かす。
- ・役割分担がある。リーダーもいる。
- ・自分の特技を生かせる場所が欲しい
- ・安心・安全

意見のまとめ

- ◇ 各町内に公民館や集会所を作って欲しい。
- ◇ 町内に役割分担を作り全員参加
- ◇ 大切なのは思いやる気持ち、助け合う気持ち

討議6 『暮らし続けたい街たかさき』 一番重要なつながりはこれだ！

グループ

E

メンバー

塚越・飯塚・安田・岩丸・村田

作業スペース

問題点

- ・教育面の充実
- ・夜間・休日祝日のみ対応の病院が必要
- ・救急医療の体制の整備
- ・医療充実の街 救急面のため
- ・自給自足が可能な医療体制
- ・地産地消 食物の充実
- ・自分にとって便利な街
(健康 文化 仕事)

情報開示

- ・都市間情報の公開
(暮らしやすい情報ランキング等)

整備

- ・散歩道の確保
- ・遊歩道の整備 ウォーキング 散歩
- ・市民が安全安心して暮らせる街
- ・世代を越えた地域の共生を
目指した街
- ・皆が健康に明るく暮らせる街

- ・自慢できる町

意見のまとめ

- ◇ 医療体制の充実
- ◇ 教育面の充実
- ◇ 情報開示

討議6 『暮らし続けたい街たかさき』 一番重要なつながりはこれだ！

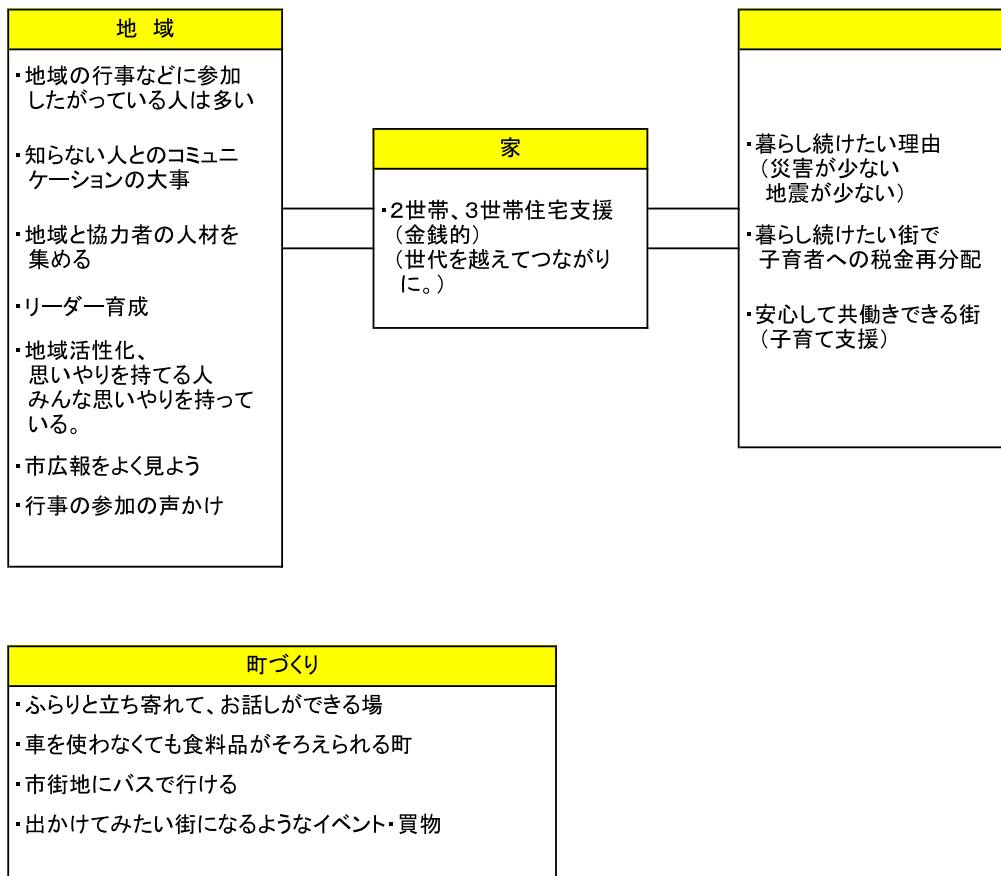
グループ

F

メンバー

今井・反町・春山・高井・村本

作業スペース



意見のまとめ

- ◇ 2世帯3世帯の住宅支援（金銭的）
- ◇ 子育て支援（補助金・安心して共働きできる）
- ◇ 隣保班・行政区のつながり